

小論文の傾向と対策・学習法

推薦入試【傾向と対策】

一般入試【傾向と対策】

方式・日程	学部学科	出題内容	
指定校推薦	学芸学部国文学科	次のア、イの中から一題を選んで、800字程度にまとめなさい。 ア、日本文学のなかで、興味を持っている作品の一つあげて、その作品について知っていることをまとめなさい。(時代・ジャンルは問いません) イ、最近、テレビや新聞で見聞きした言葉の中で、日本語の使い方として気になる例をあげて、現代日本語について感じたり、考えたりしていることを述べなさい。	
	学芸学部国際英語学科	日本は、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催という機会を捉え、2020年に向けて、訪日外国人旅行者数2000万人を目指すこととしています(ちなみに現在の数字は初めて1000万人を越えたところ)。海外からの旅行者に日本滞在を楽しんでもらうためには、今後どのような準備をしていけばよいでしょうか。ポイントを3つあげて、具体的に説明しなさい。(800~1,000字程度)	
	学芸学部心理学科	心の悩みや問題を抱えた人を援助する心の専門家として臨床心理士(心理カウンセラー)がいます。人の心の悩みを聴き、心に寄り添う心理カウンセラーになるために必要な資質とは何でしょうか。あなたの考えを800字~1,000字程度で論じなさい。	
	学芸学部 ライフプランニング学科	別紙資料の新聞記事を読み、以下の二つの問いに対する答えをあわせて800~1000字程度にまとめなさい。 ＜問い＞ ・新聞記事に書かれている内容を要約しなさい。 ・新聞記事を参考に、これからの女性の働き方について、あなた自身の意見を書きなさい。 〈別紙資料：毎日新聞記事2013年5月9日〉	
	学芸学部被服学科	被服学	若者が衣服に求めるニーズ(欲求)と、高齢者が衣服に求めるニーズの違いについて、あなたの考えを述べなさい。(600字以上~800字以内)
		化粧品学	若者が化粧品に求めるニーズ(欲求)と、高齢者が化粧品に求めるニーズの違いについて、あなたの考えを述べなさい。(600字以上~800字以内)
児童学部	詩人「星野富弘」氏の詩に、「ねこやなぎを 割ってみた 中から 宝石が でてくるような 気がして」という短い詩があります。あなたの心にとって宝物と思えることを、800字程度で述べなさい。		
健康栄養学部	わが国では中高年のメタボリックシンドロームが社会的な問題であり、このような人たちを対象とした健康産業が盛んです。そこで、このような人たちが健康的にやせるために注意しなければならないことについて800~1,000字で論じなさい。		
C方式 3月16日	学芸学部国文学科	身の回りで目にしたり、耳にしたりする日本語や方言について具体的に取り上げ、感じたり考えたりしていることを800字程度でまとめなさい。	
	学芸学部国際英語学科	「日本文化を海外に発信すること」があなたに与えられた課題です。あなたは何を取り上げ、どのように説明しますか。あなたのアイデアを展開して下さい。(800字~1,000字程度)	
	学芸学部心理学科	見ることで聴くことはいずれも外界の情報を取り入れるという重要な働きをしています。それでは、見ることで聴くことを比較したとき、両者にはどのような共通点や相違点がありますか。あなたの考えを800字~1,000字程度で述べなさい。	
	学芸学部被服学科	学生らしい装い、自分らしい装いなど、具体的に例を挙げてあなたの考えを述べなさい。(600字以上~800字以内)	
	児童学部児童学科	日本は欧米に比べて、男性が育児に参加する度合いが低く、子育ての負担が母親に集中しやすいと言われています。男性が育児に積極的に関わるようにするためには、どのような工夫が必要だと思いますか。あなたの考えを800字程度で述べなさい。	

傾向 学部学科の専攻に沿ったテーマに基づく 600字から 1,000字以内の論述。

例年と変わった点は2点ある。まず、学芸学部国文学科で2題の課題の中から1題を選択するという形式に変わった点である。次に制限字数である。昨年度の1,200字までの要求はなくなり、最大で1,000字までとなった。また、昨年度は800字程度というところが600字以上という具合に字数的には敷居が低くなったという点である。ただし、これらは健康栄養学部、学芸学部被服学科での話である。他は前年度同様の字数であり、難易度としては変わらず高いと言えよう。

難易度としては高いものの、課題とされるテーマは学部や学科の性格に基づくものであるため、関心を持って取り組みやすいと言えるだろう。その意味で受験生の関心の広さや深さが問われる「小論文」であり、入

試課題としてきわめて適切であると言える。

ほとんどの学部学科がテーマに基づいて意見を述べるという形式だが、学芸学部ライフプランニング学科だけは資料を読んで解答するものとなっている。それも今年度は資料の内容について「要約」も求められていた。「意見」に関しては全ての学部学科において「具体性」が求められている。

推薦入試の方が一般入試よりも設問の述べ方が詳しいという違いはあるが、ともに志望する学部、学科に関する社会的問題に関心を持ち、自分の意見を具体的に詳しく述べることが求められるという難易度の高い課題である。

対策 志望学部や学科に沿ったテーマに関心を持ち、具体的かつ詳細な意見を養おう。

本格的な小論文であるため、付け焼き刃的な準備では合格はおぼつかない。合格点を取るためには十分な対策が必要だ。対策のポイントは3点ある。第一に、問われているテーマにおける知識であり、次にその知識を基にした自分なりの意見、そして文章で表現できることである。これらの対策を充分に行い、成果を発揮するためには「順序」が大切である。知識のない状態で「意見」を述べようとしても難しい。そこでまずは知識を吸収することから始めよう。志望学部、学科に関係した社会的な問題に関する図書や新聞記事、ニュースなどにできるだけ多く目を通すようにして知識や意見などを取り入れておくことだ。そしてそれら

の知識や意見などをメモしておこう。知識がある程度身についたところで志望学部や学科に沿った問題に取り組んでみる。序論、本論、結論という段落構成が出来るように形式段落に気をつけながら解答してみるのだ。上手くいかないようなら「模範解答」を書き写してみよう。その際、語句、語の組み合わせ方、接続語の使い方、文の長さ、句読点の使い方、話の進め方、知識や意見の内容などを意識して学ぶことである。また、必ず「添削」を受けることだ。それも添削後に再度書きなおすことである。以上のポイントを踏まえつつ、過去問を参考にして志望に沿ったテーマの課題を選び、練習を重ねると効果的だ。

出題例 平成27年度 学芸学部国文学科指定校推薦入試A問題
イ、最近テレビや新聞で見聞きした言葉の中で、日本語の使い
方として気になる例をあげて、現代日本語について感じたり、
考えたりしていることを述べなさい。
(800字程度)

解答例

テレビのインタビューなどで頻繁に聞かれるようになってきている「なので」という言葉が私は気になる。言葉自体は接続助詞（本来は断定の助動詞「だ」形容動詞の活用語尾の連体形に原因理由を示す接続助詞「ので」がついたもの）としてきちんとした日本語であるのだが、意味、役割と言う点では本来の用法とは異なっているようだからだ。特に「～なので」で言葉が終わったり、「～なので～なので～なので……」と因果関係が終息せずに繰り返されたりすることが多い。また、「～なんで」と音便化したり、「～なんでえ～」と語尾を高くする、音を伸ばしたりすることも見受けられる。音便化や音を伸ばすことは他の語でも見られるものだが、因果関係を終息させず繰り返す点に私は危惧を感じている。

元来日本語は「話者の意志を明確にすることを避ける」という性質を持っている。これは日本人の「自然とともに生きる」あるいは「自己も自然の一部であり、主張を強めることは調和を乱すこととして避ける」という考えから生じていると思われる。しかし、グローバル化した現代では「自己主張」を良しとする流れの中に私たちは置かれている。こうなると、自己がどのように考え、何を主張するかが大事なこととなってくる。意志を曖昧にしたままではコミュニケーションにも支障をきたすのだ。

「～なので」で言葉を終えるのは「結論を相手に委ねる」という姿勢の現われだと私は考える。また、「～なので」を繰り返すのは、とりえず結論を保留する、もしかすると結論を見いだせないことの現われだと考える。「結論を保留する」あるいは「結論を見いだせない」ことは「思考の欠落」あるいは「思考能力の停滞」を意味するのではないだろうか。人生は未知の事柄や問題に対処することの連続である。他者との関わりも多い。自ら思考し因果関係を明確にして自己の主張を述べられるようにすることが求められていると私は考える。

(797字)

学習法**【小論文の基礎を学ぼう！】****① 小論文とは何か**

制限時間の中で特定の設問に対して文章で解答する。設問に対して的確に答えることが求められる。「自らの考え」を述べるにあたり、「作文」「感想文」との違いに注意。

② 小論文の課題の種類**①短文体**

「〇〇についてあなたの考えを述べなさい」など比較的短い語句や文でテーマを示し、それについて答えさせるもの。

②課題文読解型

一定の分量の文章を読ませ、その内容や文章の一部について考えを答えさせるもの。「小論文」の中では代表的な出題形式。

③資料読解型

図やグラフを提示し、そこから読み取れる事柄について答えさせるもの。文章と違って図やグラフの読み取りを練習する必要がある。

③ 小論文の基本ルール

ポイントは次の5点。①原稿用紙の使い方 ②日本語の正しい使い方 ③文字の読みやすさ ④各課題における条件を満たすこと ⑤意味段落、形式段落を設けること。

④ 表現上のルール

- ①書き出し、段落の初めは1マス空ける。
- ②「」,『』,“ ”を正しく使う。
- ③数字、英語、略語、カタカナを正しく書く。
- ④話し言葉、流行語、略語を使わない。
- ⑤漢字、熟語を正しく書く。
- ⑥常体、敬体をどちらかに統一する。
- ⑦体言止め・比喩など表現技法の使用に注意する。
- ⑧段落を設定する。
- ⑨主語と述語、修飾語と被修飾語を対応させる。
- ⑩「～て、～に、～を、～は」等の助詞を正しく使う。
- ⑪読点（、）を使いすぎない。
- ⑫接続語、指示語を適切に使う。
- ⑬身近な具体例をできるだけ使う。
- ⑭感情的な表現を避ける。

【小論文の対策を練ろう！】**①志望に合わせた知識を吸収しよう。**

課題に使われている語句を手がかりに図書館などで関係のある本をピックアップし、読めるところから読んでみる。新聞やニュースでもよい。本は全部読まなくてもよいので、気になるところ、理解できそうなところ、興味をもてそうなところを読み、ノートなどにメモをとる。

②新聞の投書欄、小論文の解答例などを書き写す。

その際、声に出して表現や考え方、話の進め方を意識して書き写す。その後、自分なりに思い出しながら書く。初めは例を見ては書くことを繰り返すのもよい。繰り返すうちに一字一句をそっくりそのまま書くことは面倒になって来るはずだ。そこで、自分なりに書いてみる。大体の話、内容、進め方がわかってきたら、何も見ないで思い出しながら自分なりに書く。

③ある程度自信がついてきたら、志望学部学科に即した形式、テーマの問題をやってみよう。

時間は制限せず、とにかく書いてみる。それを先生や他の人に添削してもらおう。添削された事柄を意識してもう一度書いてみる。これらを繰り返し、ある程度、添削されなくなったら、次の課題に進む。無駄な努力はないのだから、できるだけ多くの知識、見方、考え方を吸収し、それらを引き出せるようにしておくこと。必ず実力は身につくし発揮できるようになるので、頑張ってください。